

令和5年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (中間段階)

令和5年11月22日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
<p>めまぐるしく変化していく社会の中で、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進 ◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む ◎ICT教育の充実と、校務のICT化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールポリシーの策定に向け、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用について、一人一台端末の効果的な活用に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的な生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p>	<p>『 寄り添い 育て 鍛え 送り出す 』</p> <p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・希望進路に照らして』</p> <p>学校行事 『生徒主体・多様な人とつながる・自己肯定感・生きる力を育む』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭・関係機関との連携・個に応じて・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発と共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』</p> <p>部活動 『積極的な部活動参加・活動を通じた人間力の育成・学校の中心的存在』</p> <p>広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生や卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』</p>		
評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終総合	
国語科	言語活動を通して、的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。また、言語感覚を磨き、伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	生徒自身が主体的に思考・表現することができるような授業づくりに努める。その際、主体的に取り組めるようなICT等を用い、必要とされる資質・能力を伸ばす工夫を行う。	B		○一人一台端末に合わせ、ICTを使用する機会は増加した。iPadの活用により、課題の配付や提出、音読の録音等、個人の学習状況を把握しやすくなった。しかし、生徒間の連携や授業規律の順守については課題が残る。デジタル、アナログを問わず、活動に最適な方法で授業が行えるよう研鑽する。
		言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を育成する授業づくりに努める。その際、ICT機器を活用するなど、教材をより身近に感じられるような工夫を行う。	C		
地歴・公民科	授業での基礎基本の定着を大切に、個に応じた指導を行う。授業の内容と社会事象とを関連づけ、生徒に物事の見方・考え方を身に付けさせ、主体的に学習に取り組ませる。また、未来の有権者として、一人の主権者として現代社会での諸活動に参画する態度を育む。	地理・歴史・公民分野の授業内容を適切に理解させるとともに、時事問題や生徒にとって身近な事柄も扱い、生徒が自分のこととして社会の問題を考えられる授業を行う。また、学習の仕方の具体例を示し、個々の学習への意欲を高める。適宜声かけを行い、生徒の状態を把握し、担任や分掌とも連携して指導を行っていく。補充や課題、日々の声かけにも応じない成績不振の生徒への指導としては、目が行き届く環境で課題等を取り組ませる等、個々の課題に応じた指導を行う。	C		○文献や新聞記事など多様な資料を視聴覚教材、ICTなどを活用することにより、時事問題や生徒にとって身近な事柄を扱い、また事例として紹介することで、社会の問題を自分事として捉えさせ、他者と意見交換を行ったり、意見を文で表現させたりすることができた。 ○学習の仕方はオリエンテーションで示し、勉強の仕方の助言を行い、課題のある生徒に関しては担任などと連携をとり、補充や課題に取り組むよう指導した。 ○補充や課題、日々の声かけにも応じない成績不振の生徒への指導は、目が行き届く環境で課題等を取り組ませる等の方法を講じたが、それでも指導に乗らない生徒もおり、そのような生徒に対しては、今後も引き続き根気強く声をかけ、取組の場を設定していきたい。
		文献や新聞記事など多様な史・資料や視聴覚教材、ICTなどを用いて、社会的な見方・考え方を身に付けさせ、現代の諸課題の解決をめざし、その内容を探究的に学習させる。また、プレゼンテーション能力を身に付けさせるために、科目の特性に応じて、発表やグループ学習、ディベートなどを取り入れ、他者の考え方にふれたり自己の意見を他者に伝えたりする経験をさせる。さらに、新指導要領の実施に伴い、学習内容及び学習方法の精査、検討等を行う。	B		
数学科	授業での基礎基本の定着を大切に、個に応じた指導を行うとともに、観点別評価と指導を一体化する。また、学習指導要領に則したICTを活用した授業展開を研究する。	共通の課題を設定し、授業において基礎基本の定着と学習習慣の確立を図る。あわせて、教科会議にて授業内容や考査内容の検討を行う中で、観点別評価の実施内容について考察する。	B		○同じ科目の生徒に対しては、共通のテストを実施し、課題の共有化をつとめることができた。授業においては、すべての授業において意見を交流したようなものは構築でききれていない。
		ICTを活用して、実生活に結びついた事柄を扱った問題や会話形式の問題を扱い、文章を読み取る力や互いに意見を交流してコミュニケーション力の育成を目指す。	C		
理科	社会を担う人材として、基礎学力の定着と向上を図り、主体的に考え学ぶ態度や課題解決能力を育成する。	基礎学力の定着と向上を図るために、小テストや課題、レポート等を効果的に実施し、学習状況の把握や授業改善に活かす。また、個々の到達度や興味・関心、進路目標に合わせた課題設定を行い、生徒が学ぶ機会の確保や学習意欲の向上に繋げる。	C		○基礎学力の定着や向上を図るために、小テストや課題、レポート等実施しているが、目的意識を持って学習に取り組んでいる生徒は少なく、学習に気持ちが向かない生徒も多いため、定着や向上にはあまり繋がっていない。 ○学びを深めたり、生徒の興味・関心を引くための実験・実習やICT活用も実施・活用可能な場面を設定して行っているが、理学的思考や主体的に考えて学ぶ態度、課題解決能力を育てるには至っていない。更なる生徒の興味・関心を引くための工夫や授業改善が必要である。 ○学力や学習意欲に課題のある生徒については、学年や分掌とも連携して、支援を行っていく必要がある。
		理学的思考や主体的に考えて学ぶ態度、課題解決能力を育てるために、実験・実習やICT活用を効果的に行う。	C		

保健体育科	<p>・心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を目指す。また、自らの健康や環境を適切に管理し、改善していく能力の育成を目指す。</p> <p>・主体的・合理的・計画的で深い学びを目指した授業を行う。</p>	<p>・運動やスポーツに対して、「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方があることを理解させ、多くの運動・スポーツの中から自分に適した種目を選択し、生涯を通して主体的に運動・スポーツに親しむ基盤を育てる。</p> <p>・ICT機器を活用し、自己や他者の運動動作等を確認することにより、自身または他者の課題を見つけ、改善・修正ができる一助となるようにする。</p> <p>・グループ活動を通して、コミュニケーションを図り、自己の役割を責任をもってやり通す力を見つけさせる。また、これらの活動を通して、協働することの大切さを学ばせる。</p>	B	<p>○スポーツにより親しめるよう、種目選択の方法を昨年度より変更を加え、より興味を持って、意欲的に取り組むよう工夫をしている。</p> <p>○「振り返り」の機会を増やし、自己の課題を発見し、次時につなげ、主体的に取り組む一助としている。</p> <p>○ICT機器の活用をしている種目が増えてきている。実技においては特に動画撮影を行い自己の課題を発見させたり、課題提出を行わせたりしている。特に器械運動・ダンスでは効果的に使用している。小グループでできることで互いに教えあったり、主体的に取り組む姿が見られている。</p>
		<p>・ヘルスプロモーションの考え方を踏まえて、個人の適切な意思決定や行動選択が生涯の健康づくりに関わることを意識させ、生徒が実生活に生かせるようにする。</p> <p>・課題学習を通して、調査・研究・発表させる。発表の際には、生徒のコミュニケーション能力やICT機器を活用したプレゼンテーション能力を育てられるように指導する。</p>	B	
芸術科	<p>感受できる心と表現する力を育てることを目指し、指導方法の工夫を行う。</p>	<p>本校生徒の実態に応じた教材の開拓、研究を行う。</p>	B	<p>○芸術科各科目で、本校の生徒の興味や関心に応じたより効果の高い授業実践を考え、実践を進めている。</p> <p>○本校音楽科において、講師のうち1名が夏季休業中の府立高等学校教育課程研究協議会に参加し、その後他3名の講師間で協議会で得た情報や他校の実践事例を紙ベースではあるが共有することができた。これによって観点別学習状況の評価の実践へのヒントを得ることができた。</p> <p>○美術科では、タブレットを活用し、途中段階の指導と評価に役立っている。また、班活動で対話的な学びや校内展示によって、学習意欲の向上を目指している。さらに、各課題で何度も補習を設定し、学習の定着やよりよい表現をめざして主体的に粘り強く取り組む姿勢を高めようとしている。</p>
		<p>生徒の感性をもとにした実技活動を進め、内容を深めるとともに、観点別評価の研究と実践を行う。</p>	B	
外国語科 英語	<p>あらゆる生徒に対して、基礎・基本を大切にしながら4技能をバランスよく伸ばすことを目指し、「覚える」よりも「考える」「理解すること」を意識して教材・授業法・評価方法を改善する。その際タブレット端末の有効的な活用方法を考える。</p>	<p>1年生については、学び直し教材を通して基礎・基本を身につけさせる。1、2年生については、タブレット端末を活用し、多種多様な学びの機会を増やす。すべての学年で、4技能をバランスよく伸ばすことを目指すとともに、主体的な学びに繋がるよう、パフォーマンス(音読・スピーチ・自由英作文)を取り入れた授業や評価に取り組む。</p>	C	<p>○1年生では学び直し教材を通して中学の復習を強化した。1、2年生のタブレット端末の活用については担当者間でかなり差があり、共通した活用までではできていない。辞書アプリの使用については統一した指導をしている。今後、タブレット端末の活用について綿密な計画や打合せ等がさらに必要である。</p> <p>○進学補習や基礎補充、日々の小テストについては各学年とも充実した指導を行っている。引き続き単位取得のみならず進路実現に向けても指導を継続する。</p> <p>○英検の積極的な受験についても声掛けや受験指導をしていく。</p>
		<p>英語を苦手とする生徒に対しては、つまずきの原因を早めに明らかにし、適切な働きかけを行いながら単位認定を目指す。また生徒の関心や意欲を高める様々な工夫をしながら、個々の進路実現につながる授業や補習を実施する。特にプログレスコースの生徒には、英検を積極的に受験するよう促す。また家庭学習の充実と習慣化を図るための課題(宿題、小テストの実施)を計画的に提供する。</p>	B	
家庭科	<p>実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。授業規律を確保し、授業や学びの環境づくりを大切にする。日々の授業を主体的に学ぶ姿勢を育む。</p>	<p>・自分自身の生活を見直し、授業で学んだことを生活に反映できるような学習課題に取り組ませ、知識と技術の向上を図る。</p> <p>・グループ学習や発表会、講演会において、さまざまな人の意見を聴き、多様な価値観にふれ、自分らしい生き方について考えさせる。</p> <p>・調理・被服製作・保育などの実習における教材や指導方法を工夫し、実践力を身につけさせる。</p> <p>・子育て学習プログラムを利用し、「ライフスキル」の探究活動における教材研究をする。</p> <p>・保育技術検定4級合格率100%を目指す。</p>	C	<p>○授業規律の指導について、実習時はほぼ全ての生徒がきちんと身だしなみを整えることができている。しかし通常の座学授業では、授業開始時に指導は行うものの、徹底は仕切れていないのが現状である。年度中盤から後半にかけてゆるみがかちなので、継続した指導を行う。</p> <p>○ワークシートに記入をさせる際、自分の生活を振り返り、具体的な解決策を考えるように指導を行っている。また、そうしやすいような問いかけ方になるよう、思考のステップをつくる等を心がけている。</p> <p>○ICTについては、パワーポイントとロイロノートを使用している。ロイロノートは主に提出日時と提出状況の把握のために使用しているが、小テストやアンケート等の機能も有効活用できる教科であるため、効果的な活用方法をもっと検討していく。</p>
		<p>・授業プリントやレポートを確実に取り組ませ、ロイロノートに提出させて評価する。</p> <p>・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ等の指導を徹底し、落ち着いた学習環境づくりに努める。</p> <p>・実習時の服装、身だしなみ(スマートフォンのルール)、衛生安全面についての授業規律を確認させ、周知徹底する。</p> <p>・生徒自身が考えて学習に取り組める内容のワークシートを作成するとともに、意欲的な学習姿勢を持続させられるよう指導方法を工夫する。</p>	C	
情報科	<p>授業規律を確保するとともに、「自ら学ぶ姿勢」を養うため、実践的・体験的な学習活動を重視し、発表や相互評価を通して、互いに高めあい、共生社会の中で生き抜く力を育成する。</p>	<p>授業規律の確保に努める。特に、授業開始時終了時の挨拶、身だしなみのチェック、指示を聞く姿勢や自習に取り組む姿勢など、落ち着いて学習できる環境が生徒自身の自覚により生まれるように指導する。</p>	C	<p>○担当教員の変更により、落ち着いた雰囲気での授業ができていない部分がある。そのため、授業の内容を統一するのに精一杯で、その研究にまで至っていない。</p>
		<p>新学習指導要領に準じた授業や評価方法などを研究し、実際に授業を実施しながら更なる検討・改善を進める。学んだ技術を活用できる作品制作と発表、相互評価と改善の機会を設ける。探究的な学習の時間を通じ社会に貢献できる人間を育てる。</p>	C	

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	